

# 「福祉の町・大崎町」と宣言できる町づくりを目指せ

## 新しい福祉社会は地域支援事業を軸に



坂元 正春 議員

実施が喫緊の課題であり、地元企業との連携や企業誘致等による雇用の促進、住宅用地の分譲等、町の活性化に向け積極的に取り組む考えである。

### 小・中学校までの医療費無料化の考えは

坂元議員

未就学児医療費の無料化は、今年度から実施される事になったが、更に小・中学生まで範囲を広げる事が望ましい。近隣市町との状況を見ながらとの事だったが、次の段階への実施の考えはまだ無いか。

### 前向きに検討する

町長

若い人たちが本町に住み、安心して子どもを産み育てる支援はある程度整ったと思う。今後も施策の総合的な

子どもを産み育てやすい環境整備の面では、対象年齢の引き上げは検討に値する。医療費の助成・支援は必要であるが、住民税課税世帯との関連もあり、内容等検討しながら前向きに捉えていきたい。

### 子宮頸がん予防ワクチン接種への公費助成の考えは

坂元議員

子宮頸がんは、ウイルスに効くワクチン接種と検診の定期的な受診で発症を防ぐ事ができ、予防できる唯一のがんと言われている。ワクチン接種の効果は子宮頸がんの予防だけでなく、医療費の抑制

にも繋がる。12歳の女子に接種した場合、がんの発生者数、死亡者数を73%減らす事ができ、更に定期検診を受けると云われている。ワクチンは半年間で3回の接種が必要で、費用が4〜6万円と高額であり、公費負担が望まれている。一人でも多くの女性を癌から救うため、近隣の市町に先駆けて取り組む考えはないか。

### 現段階で公費助成はまだ考えていない

町長

子宮頸がんは、年々20代から30代の女性が増加傾向にあり、年代別では乳がんを抜いて第1位となっている。現在我が国においては子宮頸がん予防ワクチンの接種は保険適用外であり、全国の市区町村自治体の一部で、金額もしくは一部助成し

ている程度で、県内の自治体で公費助成しているところはまだ無く、これから取り組みを考えるとという段階である。予防ワクチンの接種は大変重要で且つ有効な手段であり、対象となる児童・生徒の数も限られている。全額助成できなくても半額助成とか、ごく一部助成する事等、実情を踏まえた上で、今後、検討していく。

### 介護予防策の手法として

坂元議員

介護疲れによる高齢者虐待や、老老介護など介護を取り巻く問題が深刻化している。健康維持の為、生活習慣病や認知症、うつ病等、高齢者特有の精神疾患や情操教育に、\*アニマルセラピーの普及・導入について所感を伺いたい。



動物との触れあい

### 今後の研究に期待する

町長

動物とふれあう事でストレスを軽減できたり、精神的な健康回復の利点があると聞いています。高齢者医療や難病などに、人間が親しみを持つ動物と生活を共にする事で、心身の健康回復に繋がる癒し効果があるのではないかと。しかし、まだ実績例も少なく、今後、いろんな団体、NPO法人等の取組を期待したい。  
\*アニマル・セラピー  
動物とふれあう事で、心身を癒しストレスや症状を改善する事。